Hong Kong Programme Itinerary

12-19 February 2017

HKU SPACE (The University of Hong Kong School of Professional and Continuing Education)

香港大学専業進修学院

Date	Venue	Activities	
Feb 12	NRT to HKG NH809 0950/1405	1630- 1700-1800 1900-	Check in Robert Black College at HKU Briefing at Robert Black Dinner
Feb 13	Fortress Hill Fortress Hill Admiralty Wan Chai Wan Chai	0930-1200 1200-1330 1415-1545 1600-1700 1800- 2000-	English 1 Lunch at Lei Garden Lecture “Hong Kong tourism” Visit Invest Hong Kong Explore Wan Chai Market Dinner
Feb 14	Graduate House Pok Fu Lam Admiralty Wan Chai	0900-1130 1200-1235 1240-1330 1330-1500 1600-1730 1800-1900 1800-2000	English 2 Visit English class at St. Paul College Meet a teacher at St. Paul College Lunch at HKU Visit Legislative Council Visit overseas returnees Dinner
Feb 15	Admiralty Tai O	0830-1100 1200- 1400- 1800-	English 3 Lunch at Buddhist temple (靈穩寺) Visit Fat Ho Buddhist Secondary School Dinner
Feb 16	Fortress Hill Fortress Hill Central	0930-1200 1200-1230 1200-1300 1330-1500 1530-1630 1800-1900 1900-2200	English 4 Meet an overseas returnee Lunch Lecture “Hong Kong (Cantonese) food culture” Meet an overseas returnee Dinner Tour “LBGT in Hong Kong”
Feb 17	Admiralty Admiralty Admiralty	0930-1200 1200-1330 1400-1530 1600-1730 1830-	English 5 Lunch Lecture “Current Hong Kong politics development” Lecture “Freedom of speech” Dinner
Feb 18	HK	Free time	
Feb 19	HKG⇒NRT NH810 1520/2015	1200-	Leave Robert Black College for the airport

Hong Kong Experience
香港研修の感想レポート

（学年は研修参加当時のものです。）

時代と共に変化する香港の食文化

1年　針谷佳奈

日々、目まぐるしく人々が行き交う香港には日本では見ることの出来ない、多種多様な文化があふれています。また人々はもちろん、時間までもが早く過ぎるように街全体が常に変化し、世界に追い付き追い付こうとしています。

そのような変化の絶えない香港にて私がテーマとしたのは、昔ながらのローカルフードです。毎日仕事や学校で時間のない香港の人々にとって、ローカルフードは必要不可欠な食事処であり、今もなお、生活の一部です。ではなぜ、ローカルフードに注目したかというと、今、香港のローカルフードが大きな危機を迎えているからです。

長い間、人々から愛され続けていましたが、今ではグローバル化による影響を大きく受け、その数を減らしています。土地代の高騰や世界進出しているファストフード店が大きな要因です。

これらの大切な昔ながらの憩いの場が姿を消していることを、香港の人々は問題視しており、守ろうとしています。近年では、旅行客からの注目もあり、最悪の状況を免れていますが、その国ならではの個性、文化が経済の成長とともに犠牲になってしまうのは悲しい事であり、今では世界の多くの国において共通の課題ではないかと思います。

香港研修ではこのように、日本以外の国からの視点に立ち、香港はもちろん、日本や世界の変化や姿を見ることができました。初めてこの研修を知ったのは大学入学前のガイダンスでした。私は自分に自信が無く、内気で当初は、「大学の研修に参加できる能力や縁はきっと、自分には無いだろう。」と諦めていました。しかし、行ってみたいという気持ちを大切にし、思い切って応募しました。その思い切りのおかげで、私は滅多にできない貴重な経験をすることができました。そして、大学はもう高校とは大きく違い、自分から動かなければ多くを得ることができないと学びました。今後、大学生活において何度も失敗や後悔をすると思います。しかし、それも自分の人間形成の一歩だと思い、くじけず香港の女性たちのように強く、自分を持って歩んでいきたいです。

香港と観光

1年　高田優佳

私はこの香港プログラムで、香港の文化について調査し、特に香港の観光業、中国本土から訪れる”運び屋”と香港現地民の関係、香港の学生に焦点を置いて調査を行いました。現地では、観光協会で働く方からお話を聞いたり、インタビューさせていただいたりして、香

港がどのようにして外国人観光客を惹きつけているのかについて知ることができました。また、数年前から香港の人々が悩まされている、中国本土からやってくる運び屋に対しては、一週間に1度しか香港を訪れることができないという制限を設けた政策により、少しずつ緩和されつつあることもわかりました。香港の学生に関しては、学習に対する意識が高く、親や学校からのプレッシャーもあることから、学校外での課外活動やボランティア活動は日本ほど主流ではないという事実や、インターネットなどからはわからない現地学生の生の声も聞くことができました。

私がこの香港プログラムで得たものは、参加前の期待をはるかに上回るものでした。海外経験が少ない私にとっては、日本の外に出るということ自体が大きな一歩で、何をどうやって調査するのかなどのリサーチプランを0から作成することから始まり、この機会を少しでもより良いものにするために他の9人の仲間とともに高め合ったり、実際に現地に行って自分の目で見て新たなものを発見したり、このプログラムは私自身を成長させてくれる素晴らしい場となりました。普段の授業からは学べないようなことばかりで、特に現地で会った多くの人々とのコミュニケーションを通じて、様々な刺激を受け、色々なことに気づかされました。

また最終的には、異なる言語を話す人々とこうして交流できるのも、英語を勉強してきたからだということを身を持って実感でき、今後の学習に対するモチベーションも高めさせられました。

私はこのプログラムに参加できたことを誇りに思い、今回の研修で得たものは、残された大学生活や就職活動、そして社会に出てからも、色々な形で生かしていきたいと思っています。

香港とイスラーム

3年　大谷文也

香港とイスラーム。この組み合わせを聞いて君は何を思い浮かべただろうか。いや、何も思い浮かばないはずだ。私も最初はそうであった。だからこそ調べる価値があるというもの。ここで私のテーマである「香港とイスラームの関係」についてまじめに話してもいいのだが、残念ながら気分的にそんな気も起きないので、ただただ面白く読んでもらえるようにパソコンをカタカタたたいている次第である。

ここで軽くなぜこのテーマに決めたか話しておこう。イスラームという言葉にはもともと興味があった。このご時世、イスラームに興味関心を示さない人の方が「どうかしてるぜぇ！」と思う。2 年生の時から国際関係コースを専攻し、平和・紛争といったキーワードをもとに勉強を進めた。そうすると必然的に紛争が多発している地域、つまりムスリムを多く有している地域に視点が移った。+α で今回香港プログラム参加の切符を幸運なことに手にすることができた。ここで香港とイスラームをつなげることは避けられない事実であることは読者にもわかる通り。みんなにとってのグルメやファッションが私にとってイスラームであるという簡単な

話だ。

さて調べていくうちに香港では基本的にムスリムと他の住民との間で基本的に平和であるが、それは無関心である故の平和であると、私は結論に至った。彼らはお互いのことを知ろうとはしない。ふつう仲のいい友達がいたらその人のことについて知りたくなる。私も好きな人ができたらその子のことを知ろうと思うし、その人の生まれた国についても理解しようとしてきた。もちろんそれが成功に至った経験はなかったが。この無関心を払拭しなければいつか国が割れるような大惨事が起こるだろうと大谷は予想する。それは日本とて例外ではない。私の日本での使命はどのように人々の“無”関心を関心へと変えていくかであると思う。

香港の教育制度

1年　志村那央

私が香港プログラムに応募を決意したのは、自分の知らないことが知りたい、他の人が経験していない事がしたいという、とても単純なものでした。選考を通り、改めて自分の知りたい事は何だろうと考え、高校時代のオーストラリア留学で、日本人以外の友人と知り合い、それぞれの国の教育制度について興味を持った事を思い出し、今回の自分のテーマを決定しました。

初めの興味は、時代の変化による教育制度の移り変わりでした。事前学習で、いくつかの論文を読み、自分なりの仮説を立て研修に臨みました。特に香港は 1997 年に英国統治から中国の特別行政区へと国の主権が移る大きな変化を経験した国です。

その変化の中で教育がどのように変わっていったのかを、2つの私立学校を訪れ、英語のクラスに参加し先生方にインタビューをしました。その結果は現在の所、目に見えて大きな変化はないよう感じました。なぜならば、中国は社会主義政策を将来 50 年（2047 年まで）にわたって香港で実施しないこと約束している為です。これが一国二制度と言われる今の香港の現状でした。

私はこの他にも、政治や経済、文化についてのレクチャーや現地学生との会話を通し、様々の人な教育についての考えに触れることが出来ました。そうした中で、私の興味も少しずつ形を変えていきました。教育制度だけでなく、教育のあり方や、それが与える学生や社会に対する影響についても興味が湧いてきました。

今後はもっと大きな世界に目を向け、それぞれの国にある教育の問題、特に学びたくとも学べる環境が整っていない国々の教育環境に意識を傾けて行きたいと思うようになりました。

この様に、自分の興味を深く掘り下げ多面的に情報を得ることが出来る機会は日本にいるだけでは得られなかったと思います。今回の香港プログラムでは、一歩踏み出す重要性を知り、机の上では知ることのできない体験が出来た素晴らしい時間だったと思います。

皆さんも、ぜひ勇気を持って挑戦して下さい。

香港の英語教育

2年　高嶋瞳

海外旅行が大好きで、色々な国における様々な文化に興味がある私は、今回普段の個人旅行ではなかなか体験できないような、海外の教育システムについて学びたいと思いこのプログラムに参加しました。

特に私が関心を持ったのは香港の英語教育です。1997 年までイギリスの植民地であった香港は、返還されてから 20 年近く経った今でも日本と比べると比較的英語のレベルが高く、ほとんどの人が少なくとも日常生活程度の会話は問題なく話せ、学校での教え方も日本と比べて異なる点がいくつかあると聞きました。そこで私は、では実際どのように違うのだろう、英語能力を高めるため何か私たちが真似できることはないだろうかということを中心に、香港での研究を進めました。

香港で滞在中、私たちは二つの高等学校を訪問しました。そこでは実際に生徒さん達と英語の授業に参加し、どのように授業が行われているのか、先生の教え方はどうなのか、生徒の授業に対する態度はどんなものなのかなどを観察し、そして今世界共通語となっている英語の重要性について香港の学生はどう思っているのかなどを、インタビューを通して知ることができました。

教育システムの点で日本と大きく異なる点は、日本ではほとんどの場合英語教育は中学校から本格的に始まりますが、香港では英語教育が幼稚園の頃から始まることです。この時にはまず簡単なアルファベットから始まり、小学校、中学校、高校になるにつれてハイレベルの単語、文法、また英語でのエッセイ、ディスカッションを練習するなどだんだんと将来にいかせるような英語能力を身に付けていきます。

そしてもう一つ私が日本と異なると思った点は、両親の教育に対する熱心さです。香港ではほとんどの家庭で、両親が自分の子供に幼稚園に入る前から家庭で英語のアルファベットや単語を覚えさせるなど、特に英語教育に力を入れているそうです。これは、ハイレベルな英語能力を習得することで子供の将来性を広げるためだそうです。

このように、私は香港プログラムを通して学校訪問や学生、先生へのインタビュー、また香港大学の学生と仲良くなり一緒に観光をするなど、家族旅行や友人との旅行などではできないような体験をたくさんすることができました。そして自分の長所や短所なども思いがけないところで気付くなど、私自身をも大きく成長させてくれたと思います。このプログラムはただ単に勉強をするだけというものではく、人間関係など、いろいろなことが学べる機会だと思います。ぜひ皆さんにも参加してほしいです。

香港におけるジェンダー格差

1年　柴崎パメラ

私が今回の香港研修で知りたいと思ったことは、香港における不平等について。日本でも貧富の差や、女性の労働条件、育児休暇の取得、そんな事柄がニュースで取り上げられることがあります。私はしばしばそのような現状と、世間の風潮に違和感を抱いてきました。

先日アルバイト中にお客さんの、「うちの会社では、新卒採用で七割は男性を採るように上から言われてるから、面接でしっかり答えられるのは女性が多いけど、男性ばかり採らざるを得ない」という会話を聞いた時に、そんなの絶対おかしい！と憤りを覚えるのと同時に、日本で働いて暮らしていくことへの絶望も感じました。

ほかの国ではどうなのか？そう思って、香港にいる一週間の間は、現地の学生にインタビューをしたり、香港で働く女性とお話しする機会があったときには、いまの労働環境をどう感じるか、働く女性がキャリアを築いていくためにはどんなことが必要だと思うかなどを伺いました。

私が勇気づけられたのは、自分の主張があるなら、きちんと声を上げなければならない！というお言葉です。まだまだどんなビジネスの世界も男性の数の方が多いですが、実際にそのような中で働いている方々の言葉だからこそ、ずっしりと響いたのかもしれません。

私たちの興味に沿って香港について授業をしてくださったHong Kong University SPACE の先生の講義では、アジアの中では香港の女性の就業率は高いけれど、育児休暇の短さやセクハラの問題など日本と同じような課題もあることを知りました。

日本に戻ってきてからも気になったことは香港の学生に逐一連絡を取って教えてもらいました。日本に留学していたことのある香港の学生から「一度日本で就職することを考えていたけど、女性だと難しいからまだ決めることができないでいる」という話を聞いたときは申し訳ない気持ちになりましたが、日本のことが大好きで、日本で働きたいと思う彼女のような人のために、私が声を上げていくんだという野心も芽生えました。

香港の LGBT を取り巻く現状を垣間見て

1年　山﨑敏幸

読者の方々は、LGBT とは何の略か聞いたことがあるでしょうか？LGBT とはセクシュアル・マイノリティーの分類として「最も一般的」なものです。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーという四分類です。今回私は香港プログラムを通して、香港における LGBT 当事者を取り巻く現在や LGBT コミュニティーにおける歴史や文化を LGBT 活動家が主催する LGBT ツアー（写真参照）に参加して実際に自らの肌で体感してきました。その後のインタビューでは LGBT 当事者としての自身の様々な経験をお聞きすることが出来ましたし、結果として香港をより LGBT 当事者にとって住みやすい社会にする為の要素を二つ発見しました。第一に、LGBT 当事者と重要他者（家族、友達や恋人がそれに該当しうる）のカミングアウト後における関係。第二、LGBT 活動家の活動内容。

第一に、LGBT 当事者と重要他者（家族、

友達や恋人がそれに該当しうる）のカミングアウト後における両者の関係性が LGBT 当事者の心理的健康の為には重要なのです。ある方は、「私は家族からサポートされ、自身がゲイである事を家族に理解してもらえたので幸運だった。」と言います。この言葉の裏には、LGBT に対する理解不足が引き起こす差別や偏見が香港社会に存在している事を暗示していると私は感じました。

第二に、LGBT 活動家は香港において LGBT 当事者の社会的包摂を促す一助になっています。香港では、LGBT 当事者を差別から法的に守る法がないので、反差別法の立法のために議会に働きかけていますし、差別や偏見を減らすための解決策の一つとして幅広い年代の方に、セックス・ジェンダー・セクシュアリティーの三要素が絡む「性の在り方」についての理解を深める場を提供するためのイベントを開催しています。

最後に、香港プログラムの魅力は、自分の探求したい事を英語専攻の私たちが英語を使って全行程を行い、その過程で新しく多様な価値観に出会い、更には自身の新たなる内面を発見出来る事だと私は考えます。この香港プログラムに携わって下さった全ての方に感謝の言葉を申し上げるとともに結びの言葉とさせていただきます。

香港と言論の自由

2年　八代亜祐美

私は、「香港のジャーナリストをはじめとした報道や出版に関わる人の自己検閲の現況」を今回の香港研修の研究テーマに学習に取り組みました。

香港では一国二制度という特殊な政治形態が用いられており、これによって香港の憲法にあたる基本法では、中国本土では制約される言論・報道・出版の自由、集会やデモの自由、信仰の自由などが保障されています。 しかしながら、この中の言論・報道・出版の自由が近年脅かされているということを知り、興味を持ったため、前述の研究テーマに決めました。

自由が脅かされているというのは、2014 年に政府を批判した新聞社の編集長が職を追われた上、刺されて重傷を負ったという事件が起きて以来、報道や出版に関係する人に関わる同様の事件が相次いでおり、同職の人々は自己防衛のために自己検閲をせざるを得なくなったということです。

現地では、研究テーマのために、実際に政治コメンテイターとして活動もされている政治科学者の方による講義や、その後の質疑応答などを通して情報収集をしました。さらには同世代の学生たちにもインタビューをし、現状についてどう感じているかなどを聞きました。

政治科学者の方によると、やはり現在、ジャーナリスト達は自己検閲をせざるを得なくなっているそうです。もしくはジャーナリストが自己検閲せず思いのままに表現したとしても、編集者によって許可なしに内容が編集されるということも少なくないということを知りました。

また、中国本土から香港に移住した学生によれば、以前は本土と香港では、言論の自由が保障されているという点で雰囲気の違いは明らかに感じられたが、現在はその違いはほとんど無くなっているそうです。そして学生たちも報道関係者に事実を伝えることを強く求めていました。

講義はもちろん、政治コメンテイターの方や学生をはじめ、様々な現地の方の生の声を聞くことができたのはとても貴重な体験になりました。

日本で調べるだけ、旅行で行くだけではきっと得られなかった、このプログラムだったからこそ得ることのできた知識をたくさん得られたと感じています。

香港の回帰移民

2年　坂本香織

皆さんは回帰移民という言葉を聞いたことがあるでしょうか。回帰移民とは、祖国から外国へ移住し、後にまた祖国に戻ってきた人達のことです。香港では 1990 年代に海外への移民ブームが起こりましたが、同じく 1990 年代前半には多くの移民が香港に戻り始めていました。そして、1999 年に実施された一般世帯調査では、およそ 12 万人の回帰移民が香港国内にいると明らかになりました。初めて回帰移民について知った時、人生で二回も国境を越えて移住するなんて、私には到底考えられないなと思いました。そして同時に、彼らが移住をした理由に興味を持ちました。彼らはなぜ海外へ移住し、なぜまた香港に戻って来たのでしょうか。

香港研修では、回帰移民の方 4 人にお話を伺うことができました。彼らが移住した理由には、個人的なものから家庭の事情、当時の政治情勢まで様々なものがありましたが、ここでは移住の理由になった 1990 年代の政治情勢について紹介します。当時、香港の人々は中国政府を恐れていました。これは 1989 年に起きた天安門事件で、中国政府が多くの中国人学生を殺したためです。そして、1997 年に香港が英国から中国に返還されることが決まると、香港が中国政府に支配されることに対する不安が香港内で高まりました。この時、お金のある中流階級の多くの人が外国へと移住したのです。しかし、返還後の香港は人々が不安に思っていた程変化しませんでした。中国に返還されて以降、香港では一国二制度という特殊な政治体制が続いています。この制度のお陰で、中国に返還されてからも香港は、返還前に人々が恐れていた程中国政府の影響を受けずにすんでいるので、返還後に戻って来た人が多くいたのです。

本や論文を読んで調べるだけでなく、実際に現地に行って人に会い、話を聞くというのは想像以上の体験です。本や論文は、著者が人から話を聞き、その中で著者が重要だと思ったものや、著者の主張に合うものをまとめた物に

すぎません。当然、そこからこぼれ落ちた話もあるでしょう。著者というフィルターを通して物事をみることになるのです。それに対して、直接人から話を聞くというのは誰かのフィルターを通す前の、より多様な話に出会うということです。重要そうな話は勿論、一見関連が分からないものや、自分が予想していなかったものなど、様々な話を聞くことが出来ます。そして、それらの話同士の関連性や、その中でなにが重要かなどを自分で考えてまとめることで、自分の視点を発見できるのではないかと思います。皆さんもぜひ香港研修に参加して、自分の視点を見つけて下さい。

香港の貿易政策

2年　石橋友恵

私は以前から貿易に興味があったため、本プログラムでは香港の貿易政策について研究することにしました。現地では、引率の先生方のお力添えにより、Invest HK（香港投資推進局）にお伺いすることなどができ、自分の研究テーマの他にも様々なことを学ぶことができました。

今回香港現地での学習を通じて、自分のテーマについて特に 2 つのことを学ぶことができました。一つ目が、香港は会社設立をする場所として非常に魅力的であること、二つ目が香港と中国政府との政治的関係と経済的関係の矛盾です。

まず香港は会社を作る場所として非常に魅力的な場所です。その理由としては、上記した税率の低さや国単位での外資系会社設立支援などがあげられます。日本の法人税率及び所得税率がそれぞれ最高で約 36%と約 51%であるのに比べ、香港でそれぞれ最高でもたった 16.5%、15%しかありません。いかに香港の税制が会社設立において有利かがわかります。また、Invest HK や HKTDC（香港貿易発展局）など香港の貿易や会社設立をサポートする半官半民の施設もあります。

次に中国との政治的関係と経済的関係の矛盾についてですが、政治面で見ると、近年香港では雨傘革命という民主化要求運動が起こったことからわかるように、中国本土への反発が強まってきています。しかし経済面で見ると、実は中国本土との連携を強めようとしています。これはなぜかというと、中国と世界をつなぐ架け橋としての香港経済における重要な役割が失われつつあるからです。香港の港湾コンテナ取扱量は中国の一部である深センにまで抜かされてしまいました。このような背景があるため、香港は中国本土への反発を感じつつも、経済的危機を避けるために意向を伺わざるを得ないような状況にあります。

現地での学習は、事前学習で得た知識の再確認と、それでは得られなかった貴重な情報を得ることができました。かけがえのない時間を過ごせたことを幸運に思います。